

クリスマスおめでとうございます

栄聖書教会 派遣宣教師 清水勝俊・由紀子

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」(ルカの福音書2章11節)



私たちの救い主イエス・キリストの御降誕を心からお祝いし、御名を崇めます。

主にあつて愛するみなさま



バプテスマ

いつも私どもの働きのためにお祈りとご支援を賜り、誠にありがとうございます。クリスマスの前に英国は再び、全国的なロックダウンが施行されました。例年と違う不安の中でのクリスマスを迎えようとしています。しかし、この中にあつても、依然として、主の力強いみわがが推し進められています。前回のご報告以降を振り返り、お伝えいたします。

待望の洗礼式

収穫の秋を迎え、10月11日、待ちに待った森川達矢兄の洗礼式を持つことができました。夏にロックダウン規制が緩和されて浸礼が可能となり、ずっと検討してきましたが、なかなか会堂貸主からの使用許可が得られず、教会員宅のお庭で執り行うことになりました。そこは、かつて、駐在員時代に子どもの伝道集会をしていたお宅で、その集会から救われる者も起こされ、今の南ロンドンの教会にもつながっていったところでした。感慨深いものがありました。ご本人もそうですが、教会員一同、また支え導いてきた奥様のセリーヌさんにとっても、大きな喜びの時となりました。ご夫妻は、今年の1月、南ロンドンの教会の祈祷会に来られ、森川兄はその時に与えられたヨシュア記24章15節の「私と私の家は主に仕える」とのみことばに、神への信仰の確信を持ちました。祈祷会でしたので、みことばをいただいた後、みなで順番に祈りましたが、実は森川兄は、それまでイエス様の救いを信じていても、お祈りをしたことがなかったそうです。また、それまで聖書を読んでいても、その内容も納得できないことばかりだったとのことでしたが、この日、兄弟が祈られたその祈りのことばは、とても初めて祈ったとは思えない、すばらしい信仰の確信に満ちた祈りでした。ほどなく、礼拝に来た時、深い悔い改めに導かれ、この時以来、まさに、森川兄は生まれ変わって、熱心に聖書を読み、時には涙を流し

収穫の秋を迎え、10月11日、待ちに待った森川達矢兄の洗礼式を持つことができました。夏にロックダウン規制が緩和されて浸礼が可能となり、ずっと検討してきましたが、なかなか会堂貸主からの使用許可が得られず、教会員宅のお庭で執り行うことになりました。そこは、かつて、駐在員時代に子どもの伝道集会をしていたお宅で、その集会から救われる者も起こされ、今の南ロンドンの教会にもつながっていったところでした。感慨深いものがありました。ご本人もそうですが、教会員一同、また支え導いてきた奥様のセリーヌさんにとっても、大きな喜びの時となりました。ご夫妻は、今年の1月、南ロンドンの教会の祈祷会に来られ、森川兄はその時に与えられたヨシュア記24章15節の「私と私の家は主に仕える」とのみことばに、神への信仰の確信を持ちました。祈祷会でしたので、みことばをいただいた後、みなで順番に祈りましたが、実は森川兄は、それまでイエス様の救いを信じていても、お祈りをしたことがなかったそうです。また、それまで聖書を読んでいても、その内容も納得できないことばかりだったとのことでしたが、この日、兄弟が祈られたその祈りのことばは、とても初めて祈ったとは思えない、すばらしい信仰の確信に満ちた祈りでした。ほどなく、礼拝に来た時、深い悔い改めに導かれ、この時以来、まさに、森川兄は生まれ変わって、熱心に聖書を読み、時には涙を流し



森川ご夫妻

て祈り、また、主をほめたたえずにはいられなくなりました。それは奥様やあるいは、兄弟を知る者みなも知るところです。神を賛美し、ユーチューブなどでそれを発信していますが、それらはもう本当にすばらしいものです。「私と私の家は主に仕える。」こう告白し、イエス・キリストを救い主と信じて、これからの人生を歩み行く、森川兄の上に、主の豊かな恵みと祝福が、日々、溢れんばかりに注がれますように。



会堂での礼拝

また、11月4日、約7ヶ月ぶりに会堂に戻り、みなで主に礼拝をおさげすることができました。秋以降、英国では、学校も再開し、教会も会堂に戻って礼拝をささげるところが増え、リスクアセスメントを入念に行い、ようやく会堂の使用許可の連絡がありました。しかしながらその翌日、英国政府から2回目の全国ロックダウンの発令があり、翌週から施行ということで、この礼拝が持てたのもギリギリのタイミングでした。主のあわれみを覚えます。礼拝でのみことばは、マタイの福音書の6章から「明日のことは心配せず、まず、神の国と神の義を求めなさい」でした。またしばらく集まることができず、厳しい状況が続きますが、いただいたみことばに励まされて、みなで精一杯、毎日を生きていきたいと願います。

コロナの中のクリスマス

今、このロックダウンの中、今年のクリスマスは、何ができるでしょう。教会のみなで祈り求め、一つはこのコロナ禍の中でこそ、救い主イエス・キリストの御降誕のメッセージを伝えようということになりました。「コロナの中のクリスマス」と題して、みなで心をこめて、トラクトを作成しました。500部を用意し、ロンドン全域の日本食料品店などに配ります。教会員の個人的な友人の方々には、十字架の飾りのついたみことばカードなども添えてプレゼントします。また、インターネットを使ってコンサートができないかということになりました。ロックダウンの規制の中で、屋内では集まって収録・配信することもできない難しい環境ですが、離れたところでも共同で複数の者が共催できるフェイスブックの機能を使ってライブで配信します。12月5日、「クリスマスアドベントコンサート」と称してピアノ演奏と対話形式のクリスマスメッセージをお届けします。曲はバッハやベートーベンのクラシックですが、ピアノの教師をしている教会の姉妹が演奏してください。できるだけ多くの方々に視聴していただき、イエス様御降誕のメッセージが伝えられますように。他にも、子ども向けに聖書の読み聞かせを Zoom で毎週2回「ベッドタイム聖書ストーリー」と称して行っていますが、クリスマス・イブには特別なお楽しみ会を行います。また、女性の食事会の「マナの会」もロックダウンで持てずにいましたが、久しぶりに Zoom で集います。ロックダウンの規制で、集まったの礼拝ができるかどうか、とても微妙な状況ですが、主に喜ばれる礼拝をみなでおさげしたいと願っています。どうか、このクリスマス、コロナの災禍の中にあっても、救い主イエス・キリストの御降誕の良き知らせが、まだ、主を知らない多くの方々に、一人でも多くの方々に届けられますように。暗闇深まるこの世界に、ますます、主の御栄光が光輝きますように。引き続き、お祈りください。



トラクト

主にあって、

清水勝俊、由紀子





私は2018年の5月からセリーヌの夫としてイギリスに移住しました。日本在住中に求職活動をしていたこともあり、移住と同時に仕事を開始することができました。そして、ロンドンにあるフィリピン人教会に通うようになりました。1年ほど経ち、妻はフィリピン人教会にいても私の信仰が育っていないことを覚え、日本人向けの教会に行くことを提案したのです。私達は南ロンドン日本語教会の日曜礼拝に参加しました。すると、私の中の何かが私を駆り立てました。「次の祈禱会に参加しなくてはいけない」と。私は神から印を見せていただく経験をしました。

2020年の1月14日、私と妻のセリーヌは、祈禱会が行われる清水牧師宅へ行く途中、賛美歌を歌いました。ヨシュア記24章15節「あなたが住んでいる土地のアモリ人の神々でも、仕えたいと思うものを、今日、選びなさい。ただし、私と私の家は主に仕えます。」この聖書箇所が歌詞の賛美です。牧師宅に到着し、中へ招かれると、木彫りの壁掛けが目に入りました。なんとそこにはヨシュア記24章15節「私と私の家は主に仕える。」と書かれていました。私と妻はこれを見て、笑い合いました。祈りの前に聖書を朗読するのでと、牧師夫人の由紀子さんから私の妻に聖書が手渡され、セリーヌはランダムにページを開きました。牧師が、「それでは、今日の祈りのテーマとして、ヨシュア記24章15節を開いてください」と言ったとき、私はあまりの偶然に動揺してしまいました。すぐにヨシュア記24章15節を開くように言いました。しかし、妻は開こうとしません。戸惑っているようでした。「セリちゃん、ヨシュア記24章15節だよ。早く開いて。」私は妻を急かしながら、彼女の持つ聖書に目を留めました。驚いたことに、開かれたページもヨシュア記24章だったのです。

幾千もの賛美歌がある中で私たちが賛美しながら牧師宅へ向かった曲、牧師宅の木彫りの壁掛けに刻まれた聖書の言葉、牧師によって語られたその日の祈りのテーマ、2千余あるページの中から妻がぱっと開いた聖書の箇所、全てが同じヨシュア24章15節でした。ざっと計算すると、この確率は100億分の1以上となります。年末宝くじの高額当選確率2000万分の1をはるかに超えています。神の御業以外の何物でもないことは一目瞭然です。イエスを一度信じた者は常にイエスが側にいてくれます。ヨハネ20章24節で、12使徒の1人トーマスは、イエスの釘跡のついた手と槍で刺された脇腹を触れるまでは信じないと言いました。これは神への不信です。最も大きな罪です。にもかかわらず、イエスは彼の前に現れました。トーマスは言いました。「わたしの主、わたしの神よ。」これが悔い改めの瞬間でした。このトーマスの体験を通して、私も悔い改めへ導かれました。今、ここに主がおられると実感できたのです。恐れさえ感じました。そんな私にイエスはこうおっしゃってくれたのです。「シャローム」私はその日に選びました。私は主につきます。

その後、私は洗礼に備え、アルファコースとバプタイズコースを清水牧師の下で受講することにしました。しかし、その前にやるべきことがありました。私が今までに犯してきた罪を神様に告白することです。そうすることが自分の使命に思えて、清水牧師と由紀子姉に立ち会っていただき、神様に告白しました。覚えている限りの罪を吐き出しました。罪の告白を終えると、清水牧師より私の罪に対するお祈りを捧げていただきました。私はその祈りに心を合わせて祈りました。すると、急に身体が震えだし、溢れんばかりの感情が押し寄せてきました。子供のように大声を上げて泣き出したのです。体に電気が流れているかのような大きな痺れを感じました。その時は、一時的に感情の流れが押し寄せただけかと思っていましたが、今では聖霊が満ち溢れた瞬間だったと確信しています。



2020年10月1日から11月30日までに支援会に寄せられた支援金の総額は、719,600円となっております。このコロナの災禍の困難にあっても、主にささげておられる皆様のお志を、感動と畏れをもって、受けとめております。このような中にあっても、この働きを支え続けてくださっている皆様の思いに、心より感謝いたします。

清水勝俊宣教師を支える会 会計報告 2020年10月1日～2020年11月30日

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
教会献金	518,600	8教会 10件	支援金	745,179	
個人献金	201,000	18名 28件	手数料	5,701	海外送金手数料、振込手数料
献金合計	719,600		事務費	12,880	印刷費、郵送費
受取利息	1		支出合計	763,760	
前期繰越	259,878	ゆうちょ銀行	次期繰越	215,719	ゆうちょ銀行
合計	979,479		合計	979,479	

2020年10月1日～2020年11月30日に献金して下さった教会・個人(順不同・敬称略)

教会献金

キリスト教朝顔教会 永福南キリスト教会 久居聖書教会 朝日聖書教会 春日井聖書教会
浜田山キリスト教会 つつじヶ丘キリスト教会 栄聖書教会

個人献金

安達良治 西田淳志 田中真理 藤川暁子 作田銀也 佐野彩子 小山享子 矢野暁子 森本純平
中西健彦・桜 渡邊真知子 田中康一 川崎紀巳子 河西範昌 飯高満智子 加賀都喜乃 鞭木由行
島田治夫

(なお、教会の指定献金を通して、お献げくださった方々は個人名を記載していません。)

清水勝俊宣教師を支える会

◇◆開拓伝道献金◆◇

①都市銀行からの振り込み

ゆうちょ銀行 普通口座
店名二〇八 店番208
口座番号1543012

②ゆうちょ銀行からの振り込み

記号12000
番号15430121
(定期献金:毎月5日)

派遣教会: 栄聖書教会(日本福音キリスト教会連合)

宣教団体: ジャパン・クリスチャン・リンク(JCL)

支援会会長: 末松隆太郎(栄聖書教会牧師)

副会長: 竹内豪(つつじヶ丘キリスト教会牧師)

お祈りください

一人でも多くのロンドン、英国、欧州の日本人が福音を知り、イエス様の救いに与ることが出来るように。

救われた方々がみことばによって養われ成長し、キリストのみからだである教会を、共に建て上げてゆくことが出来るように。

海外で救われた方々が帰国して日本の教会につながり、祝福された信仰生活を送ることが出来るように。

<連絡先>

清水勝俊宣教師を支える会 代表 末松隆太郎 栄聖書教会 〒470-0115 愛知県日進市折戸町孫三ヶ入 86
栄聖書教会派遣宣教師 清水勝俊 amazinggrace721@gmail.com 事務局 西田淳志 shienkai.shimizu@gmail.com